



EFの重役と共に記念撮影に臨む酒井教授(中央)
(撮影・横井一隆)

養・酒井教授ら

語学試験を活用 習得の仕組み探求

脳科学が専門の酒井邦嘉教授(総合文化研究所)は11日、留学・語学教育事業を展開する私立教育機関イー・エフ・エデュケーション・ファースト(EF)と共同で、母国語でない言語

を習得する仕組みの解明を目指す研究を始めると発表した。EFの日本語試験や世界規模の英語試験で、語学適性がある人の脳構造や海外生活が言語習得に与える影響などを調査する。

研究対象は海外のEF語学学校で英語を学ぶ日本人と、日本のEF語学学校で日本語を学ぶ外国人。核磁気共鳴画像法(MRI)でEFの試験に解答中の脳の活動量を測定する。母国語以外の言語を習得する初期には試験中に脳の活動量が増えるが、定着すると活動量が減るため、言語の習熟度を判断できるといふ。

日本語と英語を調べるため、海外生活が言語習得に与える影響を言語一般で検証できる。語学適性がある人の脳の構造も研究し、各人の脳構造に応じた適切な語学教育の実現を目指す。

EFは無料のオンライン試験を提供し、2014年には英語試験を世界70カ国91万人の成人が受験。試験結果から国別の英語能力指数を発表している。